

マレーシア語の連用修飾的複文

野元 裕樹, アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー

1. はじめに

本稿で扱う「連用修飾的複文」とは、文の中核となる節である主節と、主節の項でなく主節の述語を修飾するような従属節から成る複文をいうものとする。この定義は意味に基づく。修飾関係の形態統語的実現方法としてはいくつかのパターンがあり得る。表1はそれをまとめたものである。α, βは何らかの形態統語的標示がなされることを表す。この形態統語的標示は、具体的には、接続詞であったり、小辞であったり、述語（動詞など）の形態変化であったりする。また、標示というよりは、倒置／前置のような統語操作である場合もある。なお、本稿では対象としないものの、2文の連続の際のパターンも表に入れておく。多くの場合、2文の連続と1文の複文を並行的に捉えることができるためである。

表 1 連用修飾の形態統語的実現パターン

		1文 (複文)		2文		
(i)	無標示型	節 1,	節 2.	文 1.	文 2.	
(ii)	主節標示型	節 1,	β+ 節 2.	文 1.	β+ 文 2.	
(iii)	主従両標示型	α+ 節 1,	β+ 節 2.	α+ 節 1.	β+ 節 2.	
(iv)	従属節標示型	(a)	α+ 節 1,	節 2.	α+ 節 1.	節 2.
		(b)	節 2	α+ 節 1.	節 2.	α+ 節 1.

正保 (2000) が指摘するように、(ii)主節標示型と(iii)主従両標示型では2節の順序が固定している。これは(i)無標示型についても当てはまると考えられる。それに対し、(iv)従属節標示型では、主節と従属節の順序は入れ替えが可能である。ただし、日本語では主節の述語が文の末尾に生起せねばならず、従属節を後置すると付け足しになってしまう。

以下、各パターンを日本語または英語の例に基づき、順に見ていく。まず、無標示型は、2節を並置する純粋なパラタクシス構文がここに入る。日本語ではこの型は生産的でない。しかし、この型に基づいて発達したのではと思われる副詞は存在する。たとえば、「いけません」である。

(1) 無標示型

- a. いかんせん、値段が高すぎる。
- b. *値段が高すぎる、いかんせん。

主節標示型は日本語には存在しないようである。英語では、(2a)のような *so* の用法が主節標示の例である。(3)のような *so* の用法も主節標示の例と考えられるかもしれない。(3b)では *so* の生起に加え、倒置（動詞の前置）も起こっている。

(2) 主節標示型

- a. The dog was hungry (and) *so* we fed it.

「ひもじそうにしていたので、食べ物を与えた。」

(『リーダーズ英和辞典』)

- b. **So* we fed it, the dog was hungry.

(3) a. He couldn't speak, he was *so* angry.

「ものも言えなかった、そんなに怒っていたのだ。」

- b. My father was a Tory, and *so am I*.

「父は保守党员でしたがわたしもそうです。」

(『リーダーズ英和辞典』)

主従両標示型には、相関構文と呼ばれる構文が含まれる。日本語では「～たり…たり」構文が主従両標示型に近いのかもしれない。英語では、やはり *so* が関与し、*as ... so ~* という形式で生起する。*if ... then ~* 構文も主従両標示の例である。

(4) 主従両標示型

- a. Just *as* the lion is the king of beasts, *so* the eagle is the king of birds.

「ちょうどライオンが百獣の王であるのと同様にワシはすべての鳥の王である。」

(『リーダーズ英和辞典』)

- b. **So* the eagle is the king of birds, just *as* the lion is the king of beasts.

従属節標示型は、日本語や英語の連用修飾的複文で最も一般的なパターンである。日本語では、従属節で動詞の語形が連用形になったり、接続助詞が用いられる。英語では、従属接続詞（以下、単に「接続詞」と呼ぶ）が用いられるほか、動詞が分詞形で現れる、分詞構文もここに含めることができる。(5d)のように、倒置（助動詞の前置）が起こる場合もある。本稿では、正保（2000）に従い、分詞構文や倒置構文もパラタクシスの一種とみなす。

接続詞の生起なしに接続詞使用相当の意味が観察されるからである。

(5) 従属節標示型

- a. 昨日は 10 時に家に帰り、少しテレビを見て (から)、寝ました。
- b. Yesterday, I got home at ten and I went to bed *after* I watched TV.
- c. Not knowing what to do, he remained silent.

「どうしていいのかわからなかったので、彼は黙っていた。」

(『ジーニアス英和大辞典』)

- d. *Should you* have any problems, please don't hesitate to call.

「もしご質問があれば、遠慮なくお電話をください。」

(『ジーニアス英和大辞典』)

マレーシア語における連用修飾的複文は、主節標示型と従属節標示型が中心であるが、無標示型や主従両標示型も存在する。標示としては、接続詞や小辞などの語を用い、迂言的である。もっぱら連用修飾に用いられるような特別な動詞の形態はほとんど存在しない。この点で、日本語をはじめとするアルタイ型の諸言語とは異なる。むしろ、印欧語に類似する。2つの節が並置されているだけのように見える、いわゆるパラタクシス構文も口語体で広く使用される。パラタクシス構文は、何の標示もなく2節が並置されている、無標示型である場合もあるが、実は主節あるいは従属節、またはその両方に小辞など、何らかの節間関係を表す要素を含む場合も多い。

本稿では、特集アンケートの日本語文に相当するマレーシア語文を提示するほか、マレーシア語のパラタクシスに関する先行研究である正保(2000)の内容も折に触れ、紹介する¹。本稿で示すデータは、マレーシア国内の地域方言の差を超えて使われる、マレーシア語の標準方言のものである。標準方言においては、書き言葉と話し言葉があり、2つの変種の間差は大きく、ダイグロシヤ状況を生んでいる。本稿のデータは基本的に書き言葉のものである。特に、話し言葉のみにおいて容認可能であるような文については、その旨を示す。例文はアズヌール・アイシャが特集アンケートの日本語文に基づいて作ったものが中心である。これに加え、正保(2000)で引用されている例文も用いる。特集アンケートの例文番号は【 】に入れて示す。正保論文からの例文の引用は、同論文中の例文番号を【正保(1)】のように示す。例文の詳細な出典は正保論文を参照されたい。なお、正保論文では例文に日本語訳がないため、野元が新たに訳文を付した。

以下、特集アンケート項目を手がかりに、節間の関係ごとに具体的な例を見ていく。節

¹ マレーシア語のパラタクシス構文については他に、Koh(1990: 第6章)やUzawa(2013)も論じている。

間の関係は、時間関係（第2節）、因果関係（第3節）、条件関係（第4節）、逆接関係（第5節）のように分類した。

2. 時間関係

ある出来事と時間的に並行して起こる付帯的事態を表す表現は、(6a)のように、接続詞 *sambil* 「～しながら」により導入される。動詞 *membaca* 「読む」の主語は主節の主語と同一であるため、明示されていない。*sambil* 句内の動詞は能動態標識 *meN*²を伴っている。一般に、接続詞が動詞を直後に取りする場合、形態統語的に *meN*の生起が許される環境であれば、*meN*が生起する傾向にある。(6b)のようなパラタクシス構文は、動詞の形態に関わらず、容認されない。

- (6) a. *Dia selalu makan sambil *(mem-)baca surat khabar.*³ 【(1)】
 3SG always eat while ACT-read newspaper
 b. **Dia selalu makan ___ (mem-)baca surat khabar.*
 3SG always eat ACT-read newspaper
 「彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。」

付帯状況を表すには、接続詞 *sambil* 「～しながら」(7a)や *dengan* 「～した状態で」(7b)を用いる。両者の間には、補部の選択において意味の違いがある。*sambil*を用いた(7a)は、日本語の訳文と同様、(mem-)[p]akai が身に付ける動作（英：to put on）の意味と身に付けた状態（英：to wear, have on）の意味の双方で解釈できる。一方、*dengan*を用いた(7b)は、後者、つまり状態の読みしかない。なお、くだけた口語体であれば、(7c)のように、接続詞を用いずに動詞句を並置することも可能である。くだけた文体であるためか、能動態標識 *meN*は生起しない。*pakai* は動作と状態の双方に解釈できる。

- (7) a. *Hari ini dia berjalan-jalan sambil (mem-)pakai topi.* 【(5)】
 day this 3SG walk while ACT-wear hat
 b. *Hari ini dia berjalan-jalan dengan (mem-)pakai topi.*
 day this 3SG walk with ACT-wear hat

² 能動態標識 *meN*の *N* は鼻音要素を表し、語幹の最初の音に応じて変化する。なお、語幹が *p*, *t*, *s*, *k* で始まる場合、これらの音はたいてい脱落する。本稿では、これらの脱落する無声阻害音を [] に入れて表記することにする。

³ Leipzig Glossing Rules にない略号：ACT: active; PART: particle.

- c. Hari ini dia berjalan-jalan ____ (*mem-)[p]akai topi.
 day this 3SG walk ACT-wear hat
 「(あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。」

複数の出来事の時間の経過に沿った継起は, (8a)のように, dan 「と」による等位接続で表される. くだけた口語体においては, (8b)のように, dan を用いずに動詞句を並置することも可能である.

- (8) a. Semalam, saya pulang ke rumah pada pukul 10, menonton TV 【(2)】
 yesterday 1SG return to home at o'clock 10 watch TV
 dan kemudian tidur.
 and then sleep
- b. Semalam, saya pulang ke rumah pada pukul 10, tengok TV,
 yesterday 1SG return to home at o'clock 10 watch TV
 ____ kemudian tidur.
 then sleep

「(私は) 昨日は10時に家に帰って, 少しテレビを見て (から), 寝ました。」

時間的に先行する出来事がそれに継起する出来事の原因になる場合, (9a)のように接続詞 lalu 「そして, それから」が用いられる. (9b)のように接続詞を用いずに動詞句を並置する文は, くだけた口語体であっても容認されない.

- (9) a. Semalam, saya terjatuh di tangga lalu terluka. 【(3)】
 yesterday 1SG fall at stairs and.then injured
- b. *Semalam, saya terjatuh di tangga, ____ terluka.
 yesterday 1SG fall at stairs injured
- 「(私は) 昨日階段で転んで, ケガをしてしまった。」

ある出来事が別の出来事の後ですぐさま継起することを表すには, (10a)のように, 接続詞 sebaik 「～するやいなや」を用いることができる. また, (10b)のように, 動詞に接頭辞 se-を付加しても同様の意味を表すことができる. 接頭辞 se-の付加は, マレーシア語において連用修飾が動詞の形態により示される, 数少ない例である. ただ, 正保 (2000) が指摘するように, この用法の se-が付加できる動詞は, 到着を表す動詞などごく少数に限られる. 主語は se-が付加された動詞の後に生起する. また, いずれの例にも小辞 sahaja/saja 「だけ」がよく共起する. (10c)のように, sebaik や se-なしに, sahaja だけでも同様の意味を表

すことができる。 *sahaja* は動詞の後に生起する。 (10d)のように、主語を動詞の前に置くことはできない。

- (10) a. *Sebaik sahaja* kami nampak burung, kami lastik. 【正保(150)】
 as.soon.as only 1PL see bird 1PL hit.with.a.catapult
 「鳥が見えるやいなや、僕達はパチンコで撃った。」
- b. *Se-tiba* saya di lapangan terbang Brakas, saya bergegas masuk 【正保(39)】
 SE-arrive 1SG at airport Brakas 1SG rush enter
 ke balai berlepas.⁴
 to hall depart
 「ブラカス空港に着くや、私は出発ロビーに駆け込んだ。」
- c. Nampak *sahaja* burung, kami lastik. 【正保(142)】
 see only bird 1PL hit.with.a.catapult
 「鳥が見えるやいなや、僕達はパチンコで撃った。」
- d. **Kami* nampak *sahaja* burung, kami lastik. 【正保(146)】
 1PL see only bird 1PL hit.with.a.catapult

sebaik と同じく、*sahaja/saja* とともに用いられる時間を表す表現として、副詞 *baru* 「～したばかり、ようやく～」がある。 (11b)のように、*baru saja* は通常、副詞が生起する位置にも生起し得るので、(11a)はこれが前置したものと考えられる。つまり、従属節が前置という統語操作により連用修飾の機能を得た、従属節標示型である。 (10c)についても、同様に分析できる。

- (11) a. *Baru saja* dia memegang topi itu, bulu roma-nya naik. 【正保(9)】
 just only 3SG hold hat that fine.hair-3SG rise
 「その帽子を手を取った瞬間、身の毛がよだった。」
- b. *Dia baru saja* balik dari luar negeri. 【正保(17)】
 3SG just only return from outside state
 「彼は外国から戻ったばかりだ。」

sahaja/saja は用いられていないものの、次の(12a)でも、否定辞+形容詞の *belum sempat* が前置している。 (12b)は、*belum sempat* の通常の述語位置での生起を示す。

⁴ 正保論文の例文中では *balai berlepas* でなく *dewan perpisahan* [hall separation] が用いられている。しかし、「出発ロビー」の意味では前者が普通なので、元の例文を改変した。

(12) a. *Belum sempat dia bercerita, orang kampung tetap mengatakan,* 【正保(7)】
 not.yet have.chance 3SG tell.story person village still say
 “Pak Sahak memang gagah!”
 Mr. Sahak indeed sturdy
 「彼が話す隙もなく、村人たちは『サハックさんはそりゃあ逞しいよ！』と言うのであった。」

b. *Dia belum sempat menelepon-nya.* 【正保(16)】
 3SG not.yet have.chance telephone-3SG
 「彼はまだ彼女に電話できていない。」

時間を表す表現の方には何の標示もなく、主節に標示が起こる場合もある。(13a)では、焦点小辞-lah が動詞 dapat が前置を受けていることを裏付けている。(13b)では、主節に継起を表す小辞 pun が生起している。Asmah (2009)はこのような用法を「時の pun」と呼んでいる。

(13) a. *Dari pagi sampai petang dia minta-minta dapat-lah oleh-nya* 【正保(83)】
 from morning until afternoon 3SG ask get-PART by-3SG
 30 sen.
 30 sen

「朝から晩まで頼み込み、ようやく彼は30セン手に入れた。」

b. *Beberapa jam berjalan, Bujang pun sampai di satu kawasan* 【正保(31)】
 several hour walk Bujang PUN arrive at one area
 yang selalu di-datangi-nya untuk memotong kayu api.
 REL always PASS-come-3SG to cut lumber fire
 「何時間か歩き、ブジャンはいつも薪を刈りにやって来る辺りに辿り着いた。」

時間的期限を表すときには、接続詞 sehingga/sampai 「～するまで」(14a)や sebelum 「～する前に」(15a)が用いられる。前者は主節が時間的幅を持つ事態(ここでは「待つ」)のときに、後者は主節が時間的幅を持たない事態(ここでは「料理し終える」)のときに用いられる。(14b)および(15b)に示したように、法助動詞 akan 「～だろう、つもりだ」(英: will)は従属節中に生起できない。これは英語の時を表す従属節の場合と同じである。

(14) a. *Saya akan tunggu di sini sehingga/sampai orang itu datang.* 【(31)】
 1SG will wait at here until person that come

- b. *Saya akan tunggu di sini *sehingga/sampai* orang itu akan datang.
 1SG will wait at here until person that will come
 「あの人が来るまで、私はここで待っています。」

(15) a. Saya akan siap masak *sebelum* orang itu datang. 【(32)】

1SG will finished cook before person that come

- b. *Saya akan siap masak *sebelum* orang itu akan datang.

1SG will finished cook before person that will come

「あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。」

3. 因果関係

ある行為が別の行為の理由になっていることは、(16a)や(17a)のように、結果を表す節の側に接続詞 *jadi* 「そこで、だから」を用いるか、(16b)や(17b)のように、理由を表す節を接続詞 *sebab/kerana* 「～だから」で導入する。 *kerana* は書き言葉、 *sebab* は話し言葉を中心に用いられる。(16c)や(17c)のように、いずれの接続詞も用いず、2つの節を並置することも可能であり、コンマでつなげて書かれることもよくあるが、このような例は2文と考えた方がよいだろう。後半が勧誘文でない、(17)の例がその根拠を提供する。マレーシア語は *pro* 脱落を許すものの、主語は普通、脱落しない。しかし、特に口語体で、複文の主節主語がしばしば生起しないことがある。(17c)のような文が2文でなく、1つの複文であるならば、(17a-b)と同様に、主節主語の脱落を許すはずである。しかし、それは可能ではない。よって、(17c)のような構造は、2文とみなした方がよいだろう。(16c)は後半が勧誘文で、そもそも主語が随意的なので分かりにくい、同様の議論が成り立つはずである。

(16) a. Masa sudah tidak ada, *jadi* mari pergi cepat. 【(7)】

time already not be so let's go quick

- b. *Sebab/kerana* masa sudah tidak ada, mari pergi cepat.

because time already not be let's go quick

- c. Masa sudah tiada, mari pergi cepat.

time already not.be let's go quick

「時間がないから、急いで行こう。」

(17) a. Semalam, saya sakit kepala, *jadi* (saya) tidur awal daripada biasa. 【(8)】

yesterday 1SG ache head so 1SG sleep early from usual

- b. Semalam, *sebab/kerana* saya sakit kepala, (saya) tidur awal daripada biasa.
 yesterday because 1SG ache head 1SG sleep early from usual
- c. Semalam, saya sakit kepala, *(saya) tidur awal daripada biasa.
 yesterday 1SG ache head 1SG sleep early from usual
- 「昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。」

目的を表す節は、(18a)のように、接続詞 *untuk* 「～するために」や動詞 *hendak* 「～しようとする、したい」やその口語形 *nak* を用いて表すことができる。このような *hendak/nak* の用法は、無標示型に分類することにする。しかし、*hendak/nak* が動詞の語彙的な意味を失い、完全な文法形式になっていると分析するならば、従属節標示型に分類することも可能である。「～しに行く」のように移動の目的を表す場合には、(18b)のように、動詞句を接続詞なしで続けることができる。これは、英語で *go buy a book* のように *to* 不定詞でなく、原形不定詞を用いる場合に相当する。

- (18) a. Orang itu pergi ke KL *untuk/hendak/nak* (mem-)beli buku.
 person that go to KL to/want/want ACT-buy book
- b. Orang itu pergi ke KL (mem-)beli buku.
 person that go to KL ACT-buy book
- 「あの人は本を買いに KL (クアラルンプール) に行った。」

(19a)のように、移動の目的地が明示的に示されない場合には、目的地が意味的に定まっているときにのみ容認される。例えば、「なぜあの人はその店に行ったのですか？」という質問に対する返答としてである。そうでなければ、(19a)は不自然である。日本語の「あの人は本を買いに行った」にはそのような制限はない。また、*hendak/nak* は口語体のみで容認される。

- (19) a. (?)Orang itu pergi *untuk/hendak/nak* (mem-)beli buku. 【(9)】
 person that go to/want/want ACT-buy book
- b. Orang itu pergi (mem-)beli buku.
 person that go ACT-buy book
- 「あの人は本を買いに行った。」

理由や目的の表現は、しばしば能動態標識 *meN-*が付加された動詞句によるパラタクシス構文を取る。上の(18b), (19b)がその例である。他には次のような例が挙げられる。

- (20) a. Dahi-nya berkerut *men-[t]ahan* sakit luka di kepala, di 【正保(117)】
 forehead-3SG wrinkle ACT-endure pain wound at head at
 bahu dan kaki.
 shoulder and leg
 「頭, 肩, 脚の傷を堪え, 彼の額はゆがんだ。」
- b. Ibu sudah menelefon *me-minta* dia balik ke Kuala Lumpur. 【正保(118)】
 mother already telephone ACT-ask 3SG return to Kuala Lumpur
 「お母さんはもう彼にクアラルンプールに戻るように頼むために電話しました。」

パラタクシス構文の動詞句は, (21a)のように前置したり, (21b)のように法助動詞を加えることができる。しかし, 正保 (2000) によれば, 相の助動詞は加えることができない。そのことを示す例は(21c)である。

- (21) a. *Men-dengarkan* kata-kata Bujang itu, Gadik merasa puas. 【正保(114)】
 ACT-listen words Bujang that Gadik feel satisfied
 「そのブジャンの言葉をよく聞いてみて, ガデッは納得した。」
- b. Aku bangga *dapat belajar* di sini. 【正保(120)】
 1SG proud can study at here
 「僕はここで勉強できて誇らしく思います。」
- c. *Aku bangga *telah berjaya* mengalahkan pasukan Pahang. 【正保(125)】
 1SG proud PERF succeed beat team Pahang
 (「僕はパハンチームに勝利することができて誇らしく思います。」)

意図を表すには, (22a)のように, 接続詞 *supaya/agar* 「～ように」を用いる。従属節中の主語は, 主節と同一であれば省略可能なので, 生起していない。 *supaya* と *agar* は似ているが, (22b)のように, 動詞が *nampak* 「見える」の場合には, *supaya* しか用いることができない。 *agar* の使用には(me-)lihat 「見る」に伴うような, 主体の積極的働きかけが必要なようである。

- (22) a. Dia membuka tingkap *supaya/agar* dapat (me-)lihat luar dengan 【(10)】
 3SG open window so.that can ACT-look outside with
 lebih baik.
 more well

- b. Dia membuka tingkap supaya*agar dapat nampak luar dengan lebih
 3SG open window so.that can see outside with more
 baik.⁵
 well

「(彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。」

4. 条件関係

マレーシア語で条件や仮定を表す接続詞としては, (23a)の *kalau, jika, sekiranya* が一般的である. 各接続詞の使い分けについては, 研究がないわけではないものの, 筆者の知る限り, 日本語のト・バ・タラ・ナラに関するものほどは詳細には成されていない. マレーシア語学における今後の課題の一つである. (23b)のようなパラタクシス構文は非文法的である. 1つの複文でなく, 2つの独立した文がコンマで結ばれているということならば, 容認される. この場合, 最初の節は条件・仮定としてでなく, 「明日雨が降る」という未来の出来事の叙述として解釈される.

- (23) a. *Kalau/Jika/Sekiranya* esok hujan turun, saya tidak akan pergi ke sana.
 if tomorrow rain fall 1SG not will go to there

- b. *___ Esok hujan turun, saya tidak akan pergi ke sana.
 tomorrow rain fall 1SG not will go to there
 「明日雨が降ったら, 私はそこに行かない。」

(24)も同様だが, (24b)のようなパラタクシス構文が可能である. ただし, *nanti* 「後で」がないと不自然かつぞんざいに響く.

- (24) a. *Kalau/Jika/Sekiranya* hendak datang ke rumah saya nanti, sila telefon dahulu sebelum datang.
 if want come to house 1SG later please telephone in.advance before come

⁵ *nampak* に能動態標識 *meN-*が付加した *menampak* という形式も存在するが, 頻度はそれほど高くない. これは, *nampak* が歴史的には, 語根 *tampak* に *meN-*が付加し, *menampak* (= *men-[t]ampak*)となった後に, 再分析により *me* が落ちて語根化したものであることと関係がある.

- b. ___ Hendak datang ke rumah saya nanti, sila telefon dahulu sebelum
 want come to house 1SG later please telephone in.advance before
 datang.
 come
 「家に来るなら、電話をしてから来てください。」

正保 (2000) は, *hendak* で始まり, 仮定の意味を表すパラタクシス構文として, 次の例を挙げている. 主節は法を表す形容詞 *tentu* 「きっと, 決まった」で始まっている.

- (25) ___ Hendak di-berikan sahaja kepada Kembang Kintan tentu 【正保(79)】
 want PASS-give only to flower torch.ginger certain
 Kembang Teratai merajuk.
 flower lotus sulk
 「トーチジンジャーの方だけにあげようものなら, 蓮の花はきっとすねてしまう。」

下の(26)は(24)と似ている. (26b-d)のようなパラタクシス構文が可能である. しかし, (26a)の接続詞を用いた文とは意味が異なる. まず, *nanti* 「後で」のない(26b)は, 雨が降ることが確定していて, 「明日雨が降って, 困るなあ」という意味である. ちなみに, パラタクシス構文が不可能な(24)を同じように日本語訳すると, 非文法的になる: 「*明日雨が降って, 私はそこに行かない」. どちらも最初の節が理由を表すのだが, 容認度に違いが出る. このことは, マレーシア語のパラタクシス構文も日本語のテ形も, 主節が重要な成立要因となっていることを示す. 次に, *nanti* のある(26c, d)を見てみよう. この2文は, 未定の事柄についてであるが, 話者自身の心配の気持ちを表すのではなく, 聞き手に対する助言や警告となる. 日本語ならば, 「明日雨が降ったら, 困るよ/ぞ」である. *nanti* については, 下でさらに論じる.

- (26) a. *Kalau/Jika/Sekiranya* esok hujan turun, susah-lah. 【(20)】
 if tomorrow rain fall difficult-PART
 b. #___ Esok hujan turun, susah-lah.
 tomorrow rain fall difficult-PART
 c. #___ Hujan turun esok *nanti*, susah-lah.
 rain fall tomorrow later difficult-PART
 d. #___ *Nanti* hujan turun esok, susah-lah.
 later rain fall tomorrow difficult-PART
 「明日雨が降ったら困るなあ。」

条件の接続詞は、(27a)のように、一般的真理の一部として存在する条件にも用いることができる。(27b)のようなパラタクシス構文も可能である。

- (27) a. *Kalau* tambah satu dengan satu, jadi dua. 【(17)】
if add one with one become two
b. ___ Tambah satu dengan satu, jadi dua.
add one with one become two
「1に1を足せば、2になる。」

次に、条件節の表す内容が現実世界の事実とは異なる、反実仮定の表現を見る。印欧語などでは、反実仮定を表すには接続法（仮定法）を用い、直説法とは異なる動詞の形態が用いられる。マレーシア語にはそのような動詞の形態変化は存在しない。また、マレーシア語は時制（＝時間的位置を表す文法形式）も持たない。反実仮定の文では、(28a)や(29)のように、事実を述べるときや現在のことを述べるときと同じ動詞形（ここではともに接辞なしの語根形）が用いられる。(28b)、(29)はいずれも条件・仮定の *jika/kalau* 節のみから成り、対応する帰結節を欠く。このような脱従属化／言いさし (*in-subordination*) がマレーシア語において可能であることは、野元 (2011) でも報告した。ただ、(28b)は容認不可能であるので、脱従属化には何らかの認可条件が存在するということになる。それが何かは、今のところ不明であり、今後の課題である。

- (28) a. *Alangkah* bagus-nya, *jika* bangun lebih awal. 【(15)】
what good-NMLZ if get.up more early
b. **Kalau(-lah)* saya bangun lebih awal.
if-PART 1SG get.up more early
「もっと早く起きればよかったなあ。」

- (29) *Kalau(-lah)* saya tidak pergi ke tempat yang sebegini. 【(16)】
if-PART 1SG not go to place REL such
「あんなところに行かなければよかった。」

ここで、特集アンケート中の言いさしの項目を取り上げておく。言いさしに条件の接続詞を用いることができるのは、願望を表す場合だけである。さらに、(30a)に示したように、条件の接続詞としては、*kalau* または *jikalau* (文語調) のみが可能で、*jika* や *sekiranya* は使えない。また、(30b)のように、小辞 *-lah* を伴わないと普通、文が不完全となり、非文法的

になる。

- (30) a. *Kalau-lah/Jikalau-lah/*Jika-lah/*Sekiranya-lah* ada duit lebih sedikit. 【(25)】
if-PART be money more a.little
b. **Kalau* ada duit lebih sedikit.
if be money more a.little
「もう少しお金があったらなあ。」

(31)のような提案や(32)のようなつき放しには、言いさし形式は用いられない。これらの意味は(31b)や(32b)のように、通常の命令文で表す。小辞-lah が命令文に生起するときには、有無を言わせぬような指示的命令ではなく、相手に選択の余地を与えるやわらかい命令となる。

- (31) a. **Kalau(-lah)* makan ini juga? 【(26)】
if-PART eat this too
b. *Makan-lah* ini juga?
eat-PART this too
「これも食べたら？」

- (32) a. **Jika* hendak lakukan-nya juga, *kalau(-lah)* buat ikut suka hati 【(27)】
if want do-it too if-PART do follow like heart
kamu.
2SG
b. *Jika* hendak lakukan-nya juga, *buat-lah* ikut suka hati kamu.
if want do-it too do-PART follow like heart 2SG
「やりたいなら（自分の）好きなようにやれば？」

条件表現に話を戻す。後件に働きかけのモダリティが現れる文では、日本語ではトやバは基本的に用いられない（「*駅に着くと／着けば、電話をしてください」）。しかし、(33a)に示したように、マレーシア語の3つの条件・仮定の接続詞には、そのような使い分けはない。(33b)のように、時の接続詞 *apabila* を用いることも可能である。(33c, d)は、パラタクシス構文である。パラタクシス構文は、接続詞を用いる通常の複文に比べ、丁寧さや使用場面に違いがある。(33c)は、ぞんざいな命令である。(33d)は、ガイドブックやマニュアルの指示文によく用いられる。(33d)では、(26)で見た *nanti* 「後で」も生起可能である。

- (33) a. *Kalau/Jika/Sekiranya* sudah tiba di stesen, sila telefon. 【(18)】
 if already arrive at station please telephone
- b. *Apabila* sudah tiba di stesen, sila telefon.
 when already arrive at station please telephone
- c. ___ Sudah tiba di stesen, sila telefon.
 already arrive at station please telephone
- d. ___ Tiba di stesen (*nanti*), sila telefon.
 arrive at station later please telephone
 「駅に着いたら電話をしてください。」

これまでの例では、接続詞 *kalau*, *jika*, *sekiranya* の3つの基本の条件・仮定接続詞の分布に差はほとんど見られなかった。興味深いことに、(34a)では、*jika* のみが可能である。ただ「日曜日になる」と言った場合、7日に一度、周期的に日曜日がやって来る、という事実であると解釈され得るためかもしれない。(34b)のように、*nanti*「後で」を加え、そのような可能性を排除すると、3つの接続詞すべてを用いることができるようになる。(34c-e)のようなパラタクシス構文でも同様の *nanti* の効果が見られる。*nanti* を含まない(34c)は容認不可能で、*nanti* を含む(34d, e)は容認可能である。*nanti* は付加詞であるので、(34e)のように、節の始めに生起することもできる。このような語順は口語体に特有である。

- (34) a. *Jika/*Kalau/*Sekiranya* tiba hari Ahad, hendak pergi ke taman 【(19)】
 if arrive day Sunday want go to park
 bersama semua.
 together all
- b. *Jika/Kalau/Sekiranya* tiba hari Ahad *nanti*, hendak pergi ke taman
 if arrive day Sunday later want go to park
 bersama semua.
 together all
- c. *___ Tiba hari Ahad, hendak pergi ke taman bersama semua.
 arrive day Sunday want go to park together all
- d. ___ Tiba hari Ahad *nanti*, hendak pergi ke taman bersama semua.
 arrive day Sunday later want go to park together all
- e. ___ *Nanti* tiba hari Ahad, hendak pergi ke taman bersama semua.
 later arrive day Sunday want go to park together all
 「日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。」

正保 (2000) は, (35)のように, *nanti* が主節の側に出てくるような構文を指摘している。ともに前半部分は, 命令・助言であり, *nanti* は『『でない』, 『さもない』』という意味の否定的内容の条件節相当の機能を果たす」と述べている。正保は, この構文をパラタクシス構文でなく, 独立した2文がコンマで区切られて書かれているものとみなしている。

(35) a. *Pergi-lah segera pulang, nanti ketinggalan bus pula.* 【正保(65)】

go-PART quickly return later left.behind bus PULA⁶

「すぐに帰りなさい。さもないと, バスに置いて行かれてしまいますよ。」

b. *Baik engkau dengar nasihat-ku, nanti engkau menyesal.* 【正保(66)】

good 2SG listen advice-1SG later 2SG regret

「あんたはあたしの助言を聞いておいた方がいい。じゃないと, 後悔するよ。」

nanti と同じく, 命令・助言に続き, 「～するかもしれないから」と, そのように命令・助言をする理由を付け加える語として *entah* 「知らない」がある。

(36) *Baik awak berhati-hati, entah ia datang semula.* 【正保(112)】

good 2SG be.careful not.know 3SG come again

「注意した方がいいよ。そいつはまたやって来るかもしれないから。」

予想を伴う条件文(37)と予想を伴わない条件文(38)の間に違いはない⁷。(37a)や(38a)のように条件・仮定の接続詞が用いられるほか, (37b)や(38b)のように, 時の接続詞 *apabila* (英: *when*) を用いることもできる。ただし, 時の接続詞でも *ketika* や *semasa* を用いた場合, *loceng berdering* 「ベルが鳴る」が時間的幅を持った事象として解釈され, 「ベルが鳴ったそのとき」でなく「ベルが鳴っているとき」の意味になる。つまり, ベルが鳴っている間ずっと教え続ける, という解釈である。(37c)や(38c)のようなパラタクシス構文は非文法的である。

(37) a. *Sila maklumkan saya kalau/jika/sekiranya loceng berdering.* 【(22)】

please inform 1SG if bell ring

b. *Sila maklumkan saya apabila/#ketika/#semasa loceng berdering.*

please inform 1SG when bell ring

⁶ 談話標識の *pula* は, 期待や予測に反することを表す。

⁷ 予想の有無をはっきりと表したければ, (37)には *sudah* 「もう」, (38)には *nanti* 「後で」を付け加えることができるだろう。

- c. *___ Loceng berdering, sila maklumkan saya.
bell ring please inform 1SG

「[もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。」

- (38) a. Sila maklumkan saya *kalau/jika/sekiranya* loceng berdering. 【(23)】
please inform 1SG if bell ring

- b. Sila maklumkan saya *apabila/#ketika/#semasa* loceng berdering.
please inform 1SG when bell ring

- c. *___ Loceng berdering, sila maklumkan saya.
bell ring please inform 1SG

「[もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] 鳴ったら、教えてください。」

(39)のように、恒常的条件を表す節でも条件・仮定の接続詞と時の接続詞の両方を用いることができる。

- (39) a. Di sini, *kalau/jika/sekiranya* tiba musim panas, hujan selalu turun. 【(11)】
at here if arrive season hot rain always fall

- b. Di sini, *apabila/ketika/semasa* tiba musim panas, hujan selalu turun.
at here when arrive season hot rain always fall

「ここでは夏になると、よく雨が降ります。」

対照的に、確定条件を表す節の場合には、(40a, c)や(41a)のように、時の接続詞は可能であるが、しかし(40b)や(41b)のように、条件・仮定の接続詞は用いられない。(40a)と(40c)では、従属節中の態が異なる。(40a)は受動態、(40c)は能動態である。能動態の場合には、主節に小辞 *pun* がないと不自然である。小辞 *pun* にはさまざまな用法があるが、ここでは継起を表す用法である。(40d)と(40e)はそれぞれ(40a)と(40c)に対応するパラタクシス構文である。ここでも、受動態と能動態に違いが出る。受動態のみが(簡潔な表現法として)容認され、能動態は *pun* の有無に関わらず容認されない。

- (40) a. *Setelah/Selepas* tingkap di-buka, angin sejuk masuk ke dalam. 【(12)】
after window PASS-open wind cold enter to inside

- b. **Kalau/Jika/Sekiranya* tingkap di-buka, angin sejuk masuk ke dalam.
if window PASS-open wind cold enter to inside

- c. *Setelah/Selepas* mem-buka tingkap, angin sejuk *(*pun*) masuk ke dalam.
after ACT-open window wind cold PUN ener to inside

- d. ___ Tingkap di-buka, angin sejuk masuk ke dalam.
 window PASS-open wind cold enter to inside
- e. *___ Mem-buka tingkap, angin sejuk (pun) masuk ke dalam.
 ACT-open window wind cold PUN enter to inside
 「窓を開けると、冷たい風が入って来た。」

- (41) a. *Setelah/Selepas* mendaki cerun itu, laut kelihatan. 【(13)】
 after climb slope that sea seen
- b. **Kalau/Jika/Sekiranya* mendaki cerun itu, laut kelihatan.
 if climb slope that sea seen
 「坂を上ると、海が見えた。」

受動態では主節に *pun* がなくとも容認可能であるのは、受動態が事象そのものに注意を向けさせるのに対し、能動態にはそのような機能はないとする主張 (Hopper 1983; Nomoto 予定) との関係で理解できる⁸。能動態では、注意が事象自体に向かないため、参与者のうち行為者に向く傾向にある。(40c)のように、従属節が能動態の場合、従属節中で参与者(ここでは明示的に表現されていない)に向いていた注意のパラメタを、継起を表す *pun* のような語により事象へと移してやる必要があるのだろう。継起というのは、事象と事象の時間的關係であり、参与者と事象の關係ではない。パラタクシス構文の(40d)と(40e)に見られる違いについても、「注意を向けさせる」機能の違いが理由であるとする事ができるかもしれない。だが、(40e)の場合には、単にこの環境では *pro* 脱落が許されないから非文になるという説明も考えられる。

5. 逆接関係

逆接を表す接続詞としては、*walaupun* がある。接続詞 *walaupun* を省いたパラタクシス構文である(42b)は非文となる。仮定の部分を前置し、その後以小辞 *pun* を続ける(42c)のよ

⁸ Hopper と Nomoto の考えは似ているものの、対象としている言語変種、そして態と「注意を向けさせる」機能の關係の捉え方が異なる。Hopper は『アブドゥッラー物語 (Hikayat Abdullah)』に代表される 19 世紀のマレー語を対象とし、Nomoto は現代マレー語を対象としている。「注意を向けさせる」機能については、機能主義に立つ Hopper はそれを前景化 (foregrounding) と呼び、文法の (ほぼ) 原始的な構成要素と考え、受動態 (Hopper の用語では「能格 (ergative)」) をその機能を担う構文として定義する。形式主義に立つ Nomoto は、同じ機能を低い所与性 (givenness) / 新情報であるとし、その機能は受動態標識 *di-* に固有の意味の一部であるとする。形式主義では、「注意を向けさせる」というような機能は、構文 (を構成する要素) から生じるのであり、構文を定義はしない。

うな構文でも、逆接を表すことができる。この *pun* は「自然な流れに反し、それでも」というような意味で、義務的である。

- (42) a. Gelas ini tidak pecah *walaupun* terjatuh. 【(28)】
 glass this not break although fall
 b. *Gelas ini tidak pecah ____ terjatuh.
 glass this not break fall
 c. Terjatuh *(*pun*) gelas ini tidak pecah.
 fall even glass this not break
 「このコップは落ととしても／落ちてしまっても割れない。」

前件部分が既に起こった事実である、アクチュアルな逆接の場合も、(43a)や(44a)のように従属接続詞 *walaupun* を用いる。(44a)のように、従属節だけでなく、主節にも標示を持つ、主従両標示型の *walaupun ... tetapi* ~構文も可能である。*walaupun* を省いた(43b)や(44b)は、逆接の意味を伴うパラタクシス構文にはならず、独立した2文のように解釈される。(44c)のように、等位接続詞 *tetapi* 「しかし」でつなげば、逆接の意味を持つ文として用いることができる。前件部分の後に小辞 *pun* を置く形式は、(44d)では可能であるものの、(43c)では容認されない。これは、(43c)では、前件（リンゴの値段が高い）と後件（リンゴが甘い）の間に必ずしも自然な因果関係が成立しないためであると考えられる。(44d)は、話者が彼と連絡を取るために、電話をしたり、職場を探したりしても彼が見つからなかったため、それならば家ならばいるはずだと考え、最終手段として自宅を訪問したことを暗に含意する。

- (43) a. *Walaupun* epal ini mahal, sikit *pun* tidak sedap. 【(29)】
 although apple this expensive a.little even not delicious
 b. #____ Epal ini mahal, sikit *pun* tidak sedap.
 apple this expensive a.little even not delicious
 c. *Epal ini mahal *pun*, sikit *pun* tidak sedap.
 apple this expensive even a.little even not delicious
 「このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。」

- (44) a. *Walaupun* sudah pergi ke rumah dia, (*tetapi*) dia tiada. 【(30)】
 although already go to house 3SG but 3SG not.be
 b. #Sudah pergi ke rumah dia, dia tiada.
 already go to house 3SG 3SG not.be

c. Sudah pergi ke rumah dia, *tetapi* dia tiada.
already go to house 3SG but 3SG not.be

d. Sudah pergi ke rumah dia *pun*, dia tiada.
already go to house 3SG even 3SG not.be
「彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。」

逆接関係は、従属節でなく主節の方に *pun* を用いることによっても表すことができる。

(45) ...,tak sampai dua tahun dia terbang domestik, dia sudah *pun* 【正保(12)】
not reach two year 3SG fly domestic 3SG already PUN
di-beri kepercayaan terbang antarabangsa.
PASS-give trust fly international

「…、国内線を飛び始めて2年にもならないのに、彼はもう国際線を任せられた。」

また、生起する小辞としては、対比や期待・予測に反することを表す *pula* も可能である。

(46) Baru habis satu, kerja lain *pula* datang.
just finish one work other PULA come

「1つ終わったばかりだというのに、他の仕事に来るんです。」

(ファリダ, 近藤 2005 : 46)

最後に、いずれの節にも標示がなされない、無標示型の純粋なパラタクシス構文でも逆接関係を表すことができる。

(47) Matahari belum terbit lagi, saya sudah bangun.
sun not.yet rise yet 1SG already wake.up

「日がまだ昇っていないのに、私はもう起きてしまいました。」

(ファリダ, 近藤 2005 : 46)

6. まとめ

これまでの議論では、表1の主従両標示型がほとんど登場しなかった。マレーシア語にはこのタイプも存在する。まず、条件関係を表す *kalau/jika/sekiranya ... maka* ~構文である。

- (48) *Kalau/Jika/Sekiranya* malas, *maka* tidak akan berjaya.
 if lazy then not will success
 「怠けていたら、成功しません。」

さらに、マレーシア語には「～である誰、彼（女）は…」という形式の相関構文が存在する。よく耳にする表現に、*siapa (yang) cepat, dia (yang) dapat* [who REL fast 3SG REL get] 「早い者、彼（女）は手に入れる（＝早い者勝ち）」がある。文の後半には、*dia* 「彼（女）」の他に、(49b)のように、*orang itu* 「その人」を用いることも可能である。(49c)のように、*siapa* 「誰」を2度を用いた「誰が～、誰が…」のような構文は非文法的である。

- (49) a. *Siapa (yang) tidak bekerja, dia tidak patut makan.* 【(24)】
 who REL not work 3SG not should eat
 b. *Siapa (yang) tidak bekerja, orang itu tidak patut makan.*
 who REL not work person that not should eat
 c. **Siapa (yang) tidak bekerja, siapa (yang) tidak patut makan.*
 who REL not work who REL not should eat
 「働かざるもの食うべからず。」

次に、特集アンケート項目のうち、上で取り上げていない2項目について記述する。異なる主体の行為を対照して述べるときには、(50a)のように接続詞 *manakala* 「一方」が用いられる。*dan* 「と」を用いることも可能である。マレーシア語では、対照的な行為を表すときには小辞 *pula* が頻繁に用いられる。くだけた口語体であれば、(50b)のように、接続詞を用いずに動詞句を並置することも可能である。なお、2つ目の節には動詞が生起していないが、動詞 *pergi* 「行く」が1つ目の節での使用のために生起しない、省略 (ellipsis) 構文であるとしておく。このように分析するのは、等位接続が普通、統語的に等価な要素を結びつけるものであるためである。

- (50) a. *Hari ini pun ayah pergi ke syarikat, manakala/dan abang* 【(4)】
 day this too father go to company whereas/and elder.brother
pula ke universiti.
 on.the.other.hand to university

- b. Hari ini pun ayah pergi ke syarikat, ___ abang pula ke
 day this too father go to company elder.brother on.the.other.hand to
 universiti.
 university

「今日も父は会社に行つて、兄は大学に行った。」

日本語の列挙する構文「～たり、…たり」にぴったり相当する特別な構文はマレーシア語にはないようである。そのような意味を表すには、(51a)のように、等位接続詞 *dan* 「と」や *atau* 「または」を用いる。口語体では、(51b)の *A la B la* 構文「A とか B とか」が近い意味を表す。この構文は、煩わしさのニュアンスを持つ。例えば、(51b)は質問に対するいい加減な返答としては可能であるが、しかし文脈なしの叙述文として発せられたときには不自然である。この構文がよく用いられるのは、例えば「あの人ときたら、A とか B とか言つて、全然仕事をしようしない」というように、言い訳を連ねる人物を非難する場面においてである。

- (51) a. Biasanya, pada hari cuti, saya baca buku *dan/atau* tengok TV. 【(6)】
 usually at day holiday 1SG read book and/or watch TV
 b. Biasanya, pada hari cuti, saya baca buku *la* tengok TV *la*.
 usually at day holiday 1SG read book LA watch TV LA

「(私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。」

最後に、表 2 として、本稿で取り上げた連用修飾の表現を表 1 のパターンごとにまとめておく。

表 2 本稿で取り上げた連用修飾表現

形態統語的実現のパターン		例
(i)	無標示型	(7c), (8b), (18a, b), (19a, b), (20a, b), (21a, b), (25), (26b), (27b), (33c, d), (40d), (47)
(ii)	主節標示型	dan (8a), (50a); jadi (16a), (17a); lalu (9a); manakala (50a); pula (46), (50a, b); pun (13b), (45); tetapi (44c); 前置 (13a), (17a)
(iii)	主従両標示型	kalau/jika/sekiranya ..., maka ~ (48); siapa ..., dia ~ (49a); siapa ..., orang itu ~ (49b); walaupun ..., tetapi ~ (44a)
(iv)	従属節標示型	agar (22a); apabila (33b), (37b), (38b), (39b); dengan (7b); jika (23a), (24a), (26a), (28a), (32b), (33a), (34a, b), (37a), (38a), (39a); jikalau-lah (30); kalau (23a), (24a), (26a), (27a), (29), (33a), (34b), (37a), (38a), (39a); kalau-lah (29), (30); kerana (16b), (17b); ketika (37b), (38b), (39b); nanti (24b), (26c, d), (33d), (34d, e); pun (42c), (44d); sahaja/saja (10c), (14c); sambil (6a), (7a); sampai (14a); se- (10b); sebab (16b), (17b); sebaik (10a); sebelum (15a); sehingga (14a); sekiranya (23a), (24a), (26a), (33a), (34b), (37a), (38a), (39a); selepas (40a, c), (41a); semasa (37b), (38b), (39b); setelah (40a, c), (41a); supaya (22a, b); untuk (18a), (19a); walaupun (42a), (43a), (44a); 前置(10b), (11a), (12a), (14c), (15)

参考文献

- Asmah Haji Omar. 2009. *Nahu Melayu Mutakhir (Edisi Kelima)*. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.
- Hopper, Paul J. 1983. Ergative, passive, and active in Malay narrative. In Folora Klein-Andrea (ed.) *Discourse Perspectives on Syntax*, 67–88. New York: Academic Press.
- Koh, Ann Sweesun. 1990. *Topics in Colloquial Malay*.メルボルン大学博士論文.
- 野元裕樹. 2011. 「マレーシア語のモダリティの概要」『語学研究所論集 16』, 158–178. 東京外国語大学.
- Nomoto, Hiroki. 予定. Person restriction on passive agents in Malay and givenness. *Proceedings of the Second International Workshop on Information Structure of Austronesian Languages*. Tokyo: Tokyo University of Foreign Studies.
- 正保勇. 2000. 「マレー語に於けるパラタクシスと連辞省略」東京外国語大学インドネシア研究室・マレーシア研究室（編）『佐々木重次教授退官記念論輯』, 46–61. 東京外国語大学.

Uzawa, Hiroshi. 2013. Perangkaian kata kerja dalam bahasa Melayu. In Hiroki Nomoto, Zaharani Ahmad and Anwar Ridhwan (eds.) *Isamu Shoho: Tinta Kenangan. Kumpulan Esei Bahasa dan Linguistik*, 92–117. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.

例文の出典

小西友七, 南出康世 (編集主幹) . 2001. 『ジーニアス英和大辞典』大修館書店.
ファリダ・モハメッド, 近藤由美. 2005. 『CD エクスプレス マレー語』白水社.
松田徳一郎 (編集代表) . 1999. 『リーダーズ英和辞典 (第二版)』研究社.